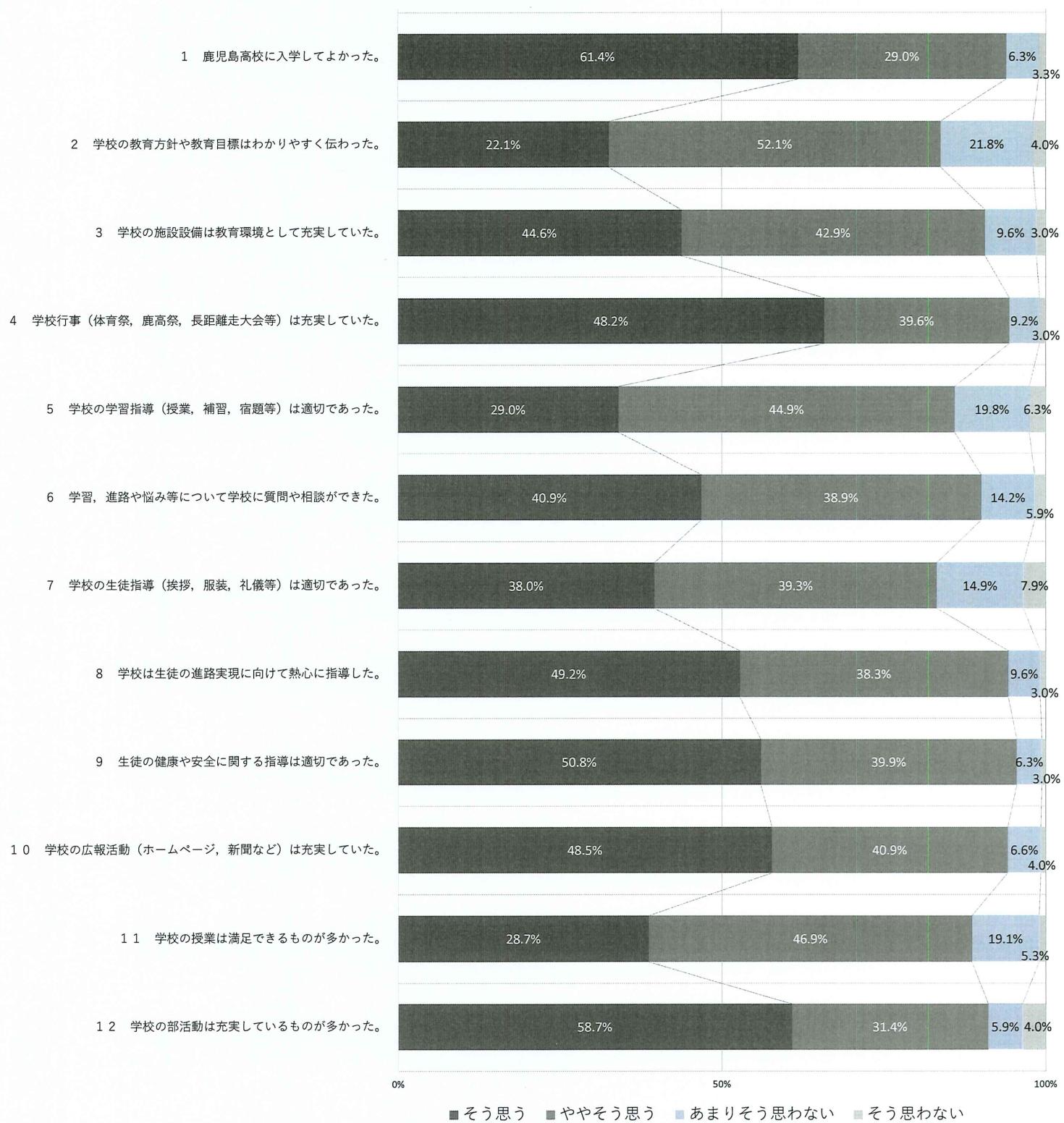
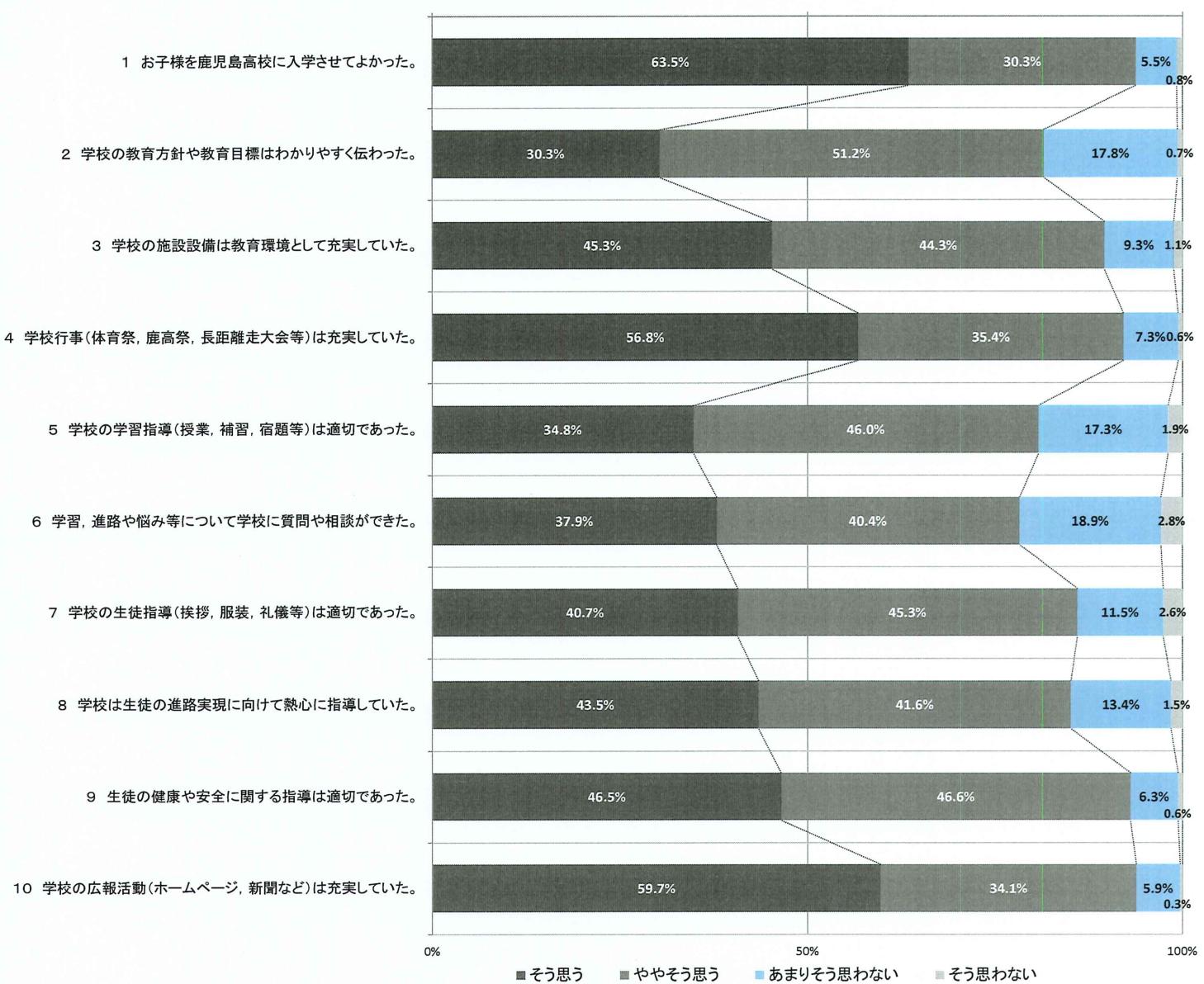


●令和5年度学校評価アンケート結果（生徒）



●令和5年度学校評価アンケート結果(保護者)



令和5年度 学校関係者評価

1 総合評価	
5.0	○現役高校生の活躍をよく耳にし、多くの方に注目される学校となっている。 ○先生方の一生懸命さが伝わってくる。 AAAA
2 学校行事	
5.0	○生徒・教員共に楽しんでいる様子がうかがえる。 ○創立100周年に伴い、例年より一層充実した行事となっている。 AAAA
3 生徒指導	
4.3	○多様な対応が求められる中で、工夫がなされている。 ○社会全体としての問題行動の増加傾向への対応を求める。 ACAB
4 要支援生指導	
4.5	○社会全体として、支援を要する生徒が増加している。 ○支援を必要とする生徒に対しての理解の工夫がなされている。 ABAB
5 進学指導	
5.0	○国公立大合格者数が毎年増加している。 ○難関大への合格者も出ている点が評価できる。 AAAA
6 就職指導	
5.0	○育成・指導状況が良好である。 ○合格率100%が維持できている。 AAAA
7 保健安全指導	
4.8	○基本的な感染対策がなされている。 ○感染症予防の指導をさらに徹底すべきである。 ABAA
8 広報活動	
5.0	○CMやニュースで取り上げられることにより知名度が上がっている。 ○動画などのつくりもよく、学校行事の配信もうまくできている。 AAAA
9 ICT推進	
4.8	○IT・iPadを活用した学習がかなり進んでいる。 ○研修などが積極的になされている。 ABAA

4段階評価 A(5点)…取り組みが良い B(4点)…取り組みが概ね良い
 C(3点)…取り組みが物足りない D(2点)…取り組みが悪い

令和5年度 学校自己評価①

基本目標・基本的視点・主な具体的取組		担当課	計画		評価				No.		
			スケジュール		目標	中間(9月末)		最終(3月末)			
			※2 A~D	実施状況(スケジュールを主に)	A~D	実施結果(目標を主に)					
1 学校ブランド力の向上											
I 進路実現に向けた指導体制強化	探究的活動による難関国公立大学・私立大学の合格者増	普通科	4月~3月「未来探究」	よかアイデアコンテスト等授業対象生徒応募率90%以上(対象者数196人)	B	対象の生徒は11月の応募締め切りに向けて作品づくり中である。	B	全員が作品を完成できた。(100%)また入賞者も出すことができた。	1		
		英数科	4月~ 探究活動の展開とまとめ	探究活動を利用した国公立大学の合格者増(在籍者の55%以上, 58人以上)	B	1年生は2学期から各自で課題を見つけて作業を進めている。2年生は文化祭で発表するための準備が順調に進んだ。	B	1年生は基本的な探究活動を終え、次年度に備えている。2年生は発表会を終え、進路実現に向けての準備に入った。	2		
		情ビ科	7~8月 インターンシップ実施	①65社、190人参加(2年生在籍者数192人) ②生徒満足度肯定評価80%以上	B	①77事業所で188人が実習参加 ②生徒満足度はほぼ100%	A	①77事業所、188人が参加した。 ②生徒満足度ほぼ100%であった。参加した生徒の進路への意識が高まった。	3		
		教務部	4月 三者面談 6,10,12月 二者面談 7,12月 三者面談(進級卒業)	進路目標設定2学年末まで 転退学率 2.5% 転退学者数 43人 (在籍者数:1,736人)	B	計画通り実施でき、生徒一人一人と意思の疎通が出来た。	A	計画どおり実施できた。特に3年生の進学に関しては、面談を基に良い結果が出せた。	4		
II 人材育成及び社会全体への貢献	独自の探究活動である「未来探究」で高大連携	普通科	4月~3月 独自の探究活動推進 新・旧カリキュラムの円滑な継承	高大連携検討	A	新カリキュラムでの探究活動は順調 新たな形での高大連携計画を審議中	B	新たな形での計画を作成できた。新たな活動での高大連携についても計画の中に盛り込めた。	5		
		英数科	4月~ 大学との連携 9月 探究成果の発表など	大学との連携授業(年3回) 文化祭での成果発表(全員1回) コンクール等への成果発表(代表者1回)	B	2学年全員が文化祭で発表をすることができた。	B	国際シンポジウムに参加して、同世代の発表を聞いて、刺激を受けて自分の探求活動に生かした。	6		
		情ビ科	通年 企業とのコラボ商品開発	コラボした企業側の満足度80%以上	B	城山ホテルとパン・さつま揚げ考案 鹿高祭で先行販売 10月17日~本販売	A	・鹿高祭での販売は15分で完売 ・城山ホテルの販売実習も有意義に取組めた。ホテル側の評価も高かった。	7		
2 先進的な教育課程の編成											
I コミュニケーション能力の育成	ネイティブ教員による「英語」「中国語会話」「韓国語会話」の授業 留学生をチューターとするエンパワーメントプログラムの実施	教務部	4月~7月 エンパワーメントプログラム 事前指導 8月 プログラム実施 4月~3月 英語検定 対策	参加者のプログラム後の英語学習に対するモチベーション維持(9月~3月) ※英語検定合格者総数 英語検定準1級合格者5人以上(R5年度合格) 英語検定2級合格者120人以上(R5年度合格)	B	計画通り実施できた。	A	「エンパワーメントプログラム」は計画通り実施でき、さらに新たに、オンライン英会話「ロジカルスピーキング」も実施した。	8		
				C	R5年度 第1回合格者 準1級1名, 2級14名, 準2級43名 10/1 第2回英検実施(結果待ち)	B	(合格者) 準1級3名, 2級49名, 準2級114名				
II ICTを活用した探究活動	ICTを活用した探究活動の情報収集と研究考察 探究活動の研究成果発表、校外コンクールへの応募	教務部	4月~3月 探究活動の研究成果発表 校外コンクールへの応募	校外での発表 生徒1人年 1回(1・2年生)	C	探究活動自体は計画的、組織的に実施出来ているが、校内での発表会に留まっている。	C	校内での探究活動、発表会は昨年よりもかなり充実していた。来年度は校外での発表も計画できそうである。	9		

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のものほか
主なものを記載してください。

※2 A 優良（計画通り(110%達成)） B 良好(概ね計画通り(90%~109%))
C 要改善(計画遅れ(70%~89%達成)) D 不可 (計画未達成(69%以下))

※3 最終評価で特記すべき事項があれば、簡潔にご記入ください。

令和5年度 学校自己評価②

基本目標・基本的視点・主な具体的取組	担当課	計 画		評 価			No.		
		スケジュール	目 標	中間(9月末)		最終(3月末)			
				※2 A~D	実施状況(スケジュールを主に)	A~D			
3 未来を築く進路保証									
I 未知を追求できる確かな学力と自己決定力の育成	進学指導	7/11/1月 1年進研模試・分析会 7/11/1月 2年進研模試・分析会 5~9月 3年進研模試・分析会 5月 普・情校外実力テスト GTZ: 受験者60%以上のC階層超 11~12月 推薦・総合受験・合格 1月 共通テスト受験 2~3月 国公立大合格 3月 最終進学	1月模試GTZB1超/受験者50% 1月模試GTZB1超/受験者40% 9月模試GTZB1超/受験者30% GTZ: 受験者60%以上のC階層超 推薦・総合受験・合格率85% 150名 合格者/出願者30%(45名) 難関私立大(A2以上)合格者40名 進学者/進学希望者94%	B	進研模試において、7月現在、1年生は46.8%、2年生は30%、9月模試で3年生は44%がB1以上であった。 また、校外実力テストにおいても、7割程度の生徒がC段階にいた。大学入学共通テストは155名の生徒が受験予定であり、大まかに目標値に近いまたはそれを上回る結果を残している。 今後も、より成長するための方策を考える。	B	進研模試において、1月現在、1年生は54.7%、2年生は20%、階層がB1以上であり、2年生で目標よりも下であった。 また、大学入学共通テストは155名の生徒が受験した。国公立大学合格は、前期・後期合計で40%(62/155)が合格しており、目標を大幅に超えた。 難関私大も58名合格しており、こちらも計画を上回る結果を残している。	10	
		II 多様な進路実現のための資格取得とキャリア教育の充実	商業や語学を含む各種資格取得対策の充実 応募前職場見学やインターンシップなど体験的学習への取り組み強化	就職指導 通年 全商主催、日商主催検定 通年 検定試験前補習 通年 SPI試験対策 7月 インターンシップ 7~10月 応募前職場見学	3年1級資格(簿記・情報処理等)保有率95% (在籍者数134人) 就職希望者の応募前職場見学参加率100%	B	計画通り検定も実施され、受験している。 合格率も経過途中ではあるが概ね良好。 目標達成に向けて継続指導中。	B	各種検定試験も予定通り実施し、計画的に受験した。合格率(96.3%)も良好で、目標を達成できた。
4 三弧会・部活動のさらなる活性化									
I 学校生活における生徒充実度の向上	三弧会	I クラスマッチ、体育祭、鹿高祭の企画・運営 SDGsなどの社会的課題への取組	7・3月 クラスマッチ 9月 体育祭 9月 鹿高祭 通年 ペットボトルキャップ回収 通年 募金活動 通年 地域社会と連携した活動	学校行事満足度肯定的評価 90%以上 回収クラス/全クラス=80%以上 募金クラス/全クラス=80%以上 2回以上	B	概ね予定通り実施できた。 体育祭、鹿高祭ともに2日開催で実施。 感染対策をし、保護者が来校できた。	B	100周年記念行事の助けもあり、満足度の高い行事運営ができた。	13
		II 全国大会で活躍できる部活動の育成	強化指定部制度の充実 部活動顧問の指導力向上	4月 新入生オリエンテーション 7月 全国大会出場者壮行会 9月 体育祭での部活動紹介	①入部率70%(全学年) ②全国大会出場部活動数9(延数20) 九州大会出場部活動10(延数20)	B	コンタクトレンズ空容器の回収も始めた。 緑の羽根(21,796円)、模擬店売り上げ合計50,652円に協力してもらえた。おはら祭の地域清掃活動を実施した。	B	すべてのクラスから、ペットボトルキャップ回収・募金(緑の羽根・模擬店売上げ合計50,652円)に協力してもらえた。おはら祭の地域清掃活動を実施した。
II 強化指定部制度の充実 部活動顧問の指導力向上	三弧会				B	概ね計画通り実施できた。(入部率60.3%) 壮行会出場者が多かった。 入退場の仕方を工夫し実施した。	B	入部率は60.8%となり、10ポイント到達できなかった。全国大会出場部活動数10(26)九州大会出場部活動9(41)であった。	15

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののはか
主なものを記載してください。

※2 A 優良（計画通り(110%達成)） B 良好(概ね計画通り(90%~109%))
C 要改善(計画遅れ(70%~89%達成)) D 不可 (計画未達成(69%以下))

※3 最終評価で特記すべき事項があれば、簡潔にご記入ください。

令和5年度 学校自己評価③

基本目標・基本的視点・主な具体的取組	担当課	計画		評価			No.		
		スケジュール	目標	※2 A~D	実施状況(スケジュールを主に)	A~D			
5 生徒募集の強化									
I 安定した専願入学者の確保	企画広報部	生徒募集活動の充実と強化	4~10月 体験入学等実施 4~12月 訪問等募集活動実施	参加者2500名以上・肯定的評価95%以上 専願者数360名	A B	夏:3,842名 秋:501 肯定的評価95% 中学校訪問を計画通り6回実施	A B		
			4~9月 企画・取材・撮影・作成 10月 完成	好意的評価90%以上	B B	100周年記念MV、学校案内作成 令和5年度版へ移行	B B		
		ホームページの刷新	4~7月 部活動紹介動画	9月までに3団体	C	演劇部のみ作成、陸上、女子バスケット部を作成予定	C		
			7~8月 体験入学動画	8月までに完成	A	夏・秋の体験入学動画を4つ作成・各種SNS定期更新	A		
			9月 体育祭・鹿高祭動画	10月中に完成	B	体育祭・鹿高祭動画をSNSへ配信	B		
		早い年代への広報活動の推進	チラシ作成		B	体験入学・説明会チラシ作成	B		
			9~3月 中学1・2生対象案内	中学2年生対象・高校授業体験		11月~2月に実施予定 (百周年記念事業の小・中学校交流は延べ6校実施済、10月に延べ4校実施予定)	B		
			新規 ・普通科(5教科受験)受験者総点度数分布		C	11月14日に吉野東中学校にて模擬授業を実施(英語科、商業科)した。 (百周年記念事業の小・中学校交流は延べ6校実施済、10月に延べ4校実施)	19		
II 高い受験率の実現に向けた入試制度改革	教務部	受験生・中学校へ向けた入試データの作成・提供方法の改善	資料作成 ・公立受験校別度数分布表 ・英数学受験者総点度数分 4月~3月 布 新規 ・普通科(5教科受験)受験者総点度数分布	受験者数5000名 受験率33%(鹿児島県内中学3年生) 入学者数510名	B	新規事業を含め、受験生確保、入学生確保にむけて、信用度の高いデータを作成した。今後、度数分布表を入試連絡会等にて、中学校・塾等に配付予定。	A	受験生4757名(前年度比+113名) 受験率31.2%(前年度比+0.3%) 入学生536名(定員充足率105%)	20
6 職員の資質向上									
I 高い教育力を有する教職員集団の醸成	教務部	初任者研修・経験者研修の実施 キャリアステージに応じた校外研修への参加 新規 研修動画サイトを利用した研修	4月~3月 初任者研修 経験者研修 7, 12, 3 研修の提出 月	初任者における一般指導10回 初任者における教科指導8回 (研究授業2回を含む) 経験者研修における研究授業 1~2回 研修実施率100% 年3回	B	概ね計画通り実施している。 動画サイトを利用した研修は、95%以上の教員が視聴研修し、1回目を終了した。	B	概ね計画通り実施できた。 動画サイトを利用した研修は、95%以上の教員が視聴研修し、年間3回実施した。	21
II ICT活用指導力の向上	ICT推進室	組織的なICT教育体制の整備 授業力向上を目指す研修実施	4月 iPad配布・説明(生徒) 授業展開 ネットワーク整備 5月以降 ネットワーク管理 8月 研修 10月 研修 隨時 操作補佐	ネットワークの安定した稼働(通年) アクティブラーナーの稼働率100% オンライン授業実施率100% 研修実施回数5回以上	C	iPad配布や管理については、予定通り行っており、問題はない。台数が増えた関係で修理やメンテナンスの事案が増えてきているが、対応できている。 アクティブラーナーに関しては、教務主任と協力して行っているが、稼働率に教員間の格差が一部ある。 オンライン授業については、コロナ禍が落ち着いたこともあり、実施する機会が減った。一方でiPadを使用した授業は大幅に増加している。 ICT機器を使用できる教員が増えたことで、研修をする機会が少なくなった。また、各教科のICT委員を中心に行っているが全体研修がなかなか実施できていない。推進室の主任・副主任が今年度は部活動の遠征や国体の関係で対応ができなかったことが原因である。	B	年間を通じて、安定したネットワーク稼働ができた。若干ネットワークが不安定にある場面も見られたが概ね良好であった。 アクティブラーナーについては、教務主任と連携したが、多くの教員が多忙な校務に追われており余裕のない状況が見受けられ稼働率は上がらなかった。 オンライン授業はコロナが5類になったことを受け、必要性が大幅に減った。一方でICT機器を活用した授業は大幅に増えた。 研修については、全体研修こそ多く実施できなかったが、個別の研修や指導を多く実施できた。ICT教育に取り組む教員も大幅に増えた。	22

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののはか
主なものをお書きください。

※2 A 優良（計画通り(110%達成)） B 良好(概ね計画通り(90%~109%))
C 要改善(計画遅れ(70%~89%達成)) D 不可（計画未達成(69%以下)）

※3 最終評価で特記すべき事項があれば、簡潔にご記入ください。

令和5年度 学校自己評価④

基本目標・基本的視点・主な具体的取組	担当課	計画		評価			No.
		スケジュール	目標	※2 A~D	実施状況(スケジュールを主に)	A~D	
7 安定した財政基盤の確立							
I 健全財政の維持・改善と学校教育予算の拡充	収入の安定確保と財政状況改善への取組み	事務室	毎月 督促連絡の徹底 教員との連携強化 滞納者管理の徹底 新規 4月～10月 インボイス制度導入に伴う諸準備	毎月引落日前の滞納率:3.5% 3月末滞納者ゼロ	C 9月末現在滞納率4.26%(昨年度4.08%) 滯納者74名(昨年度67名) 継続して関係者と連携を図り、寄り添った対応を行っていく。	B 3年生については、2月末に滞納者ゼロを確認し、無事卒業式を迎えることが出来た。 1年生滞納者なし、2年生では家庭の事情で1名の滞納者がおり、保護者との面談(教員、事務と連携)等を重ねた結果、4月に入り、退学しない旨の意思を確認した。納入期限までに学費が納入されていることを確認した。	23
		事務室	4月～3月 100周年実行委員会開催	記念事業に関する全体の決定及び進捗状況等を確認	B 施設・設備利用料のインボイス対応領収書は変更済 各部署に適格請求発行業者との取引を行いうよう周知した。	B 9月末までに左記の変更及び周知は完了した。関連して、教職員に現金授受の削減のため、消耗品等購入方法の変更を周知した。	24
		事務室	4月～3月 100周年企画運営委員会開催	各専門部会の進行管理等進捗状況を確認	B 4月から9月の期間6回開催 記念事業に係る進捗状況等の確認及び関係する業務の報告等を行ってきた。	B 3月21日に最終の実行委員会を開催し、記念誌の配付とともに創立百周年記念事業の総括を行った。	25
		事務室		3月末目標値 経常収支差額 115百万円 当年度収支差額比率 7.30% 人件費比率 61.20% 教育研究費比率 27.90% 管理経費比率 3.60% 基本金組入比率		A 12月12日に開催された記念式典は、厳粛に滞りなく挙行することができた 祝賀会は、楽しく和やか雰囲気のもと、盛大に開催することができた。 記念誌も3月15日に納品が完了し、記念事業を無事終了することができた。	26
						3月末実績 経常収支差額 231百万円 当年度収支差額比率 13.20% 人件費比率 56.90% 教育研究費比率 25.80% 管理経費比率 4.10% 基本金組入比率	

KGI	入 口 (入 学)	入学者数	510名	実績	536名
	在 学 (教育・研究)	生徒学校満足度 肯定評価	93%		93%
	出 口 (卒 業)	進学決定率 就職内定率	94% 100%		94.5% 100%